

もり よう せい サンちゃんと森の妖精

～木をえらぶことは、森をまもること～

© 1996 Forest Stewardship Council A.C. FSC-JPN-0007



発行 ● WWF山菜会
イラスト ● スギヤマカナヨ
デザイン ● 安楽豊
印刷 ● 栄光舎



この冊子は「FSC認証紙」を使用し、
印刷は「水なし印刷方式」を採用しています。

サンちゃんは、こんどしょうがくせい小学生。

きょうは、おかあさんとおかいもの。

つくえ机をかってもらうのです。

お店には、みせ机がたくさん。

サンちゃんは、うれしくてたまりません。

「サンちゃん、机をえらぶときにはね・・・」

あれれ、サンちゃん。

おかあさんのいうこと、ちゃんと聞いてる？



「これがいい!」

すぐにおき気にいりを見つけたサンちゃん。

でも、そのつくえ机でいいのかな?

「ちょっとまって!!」

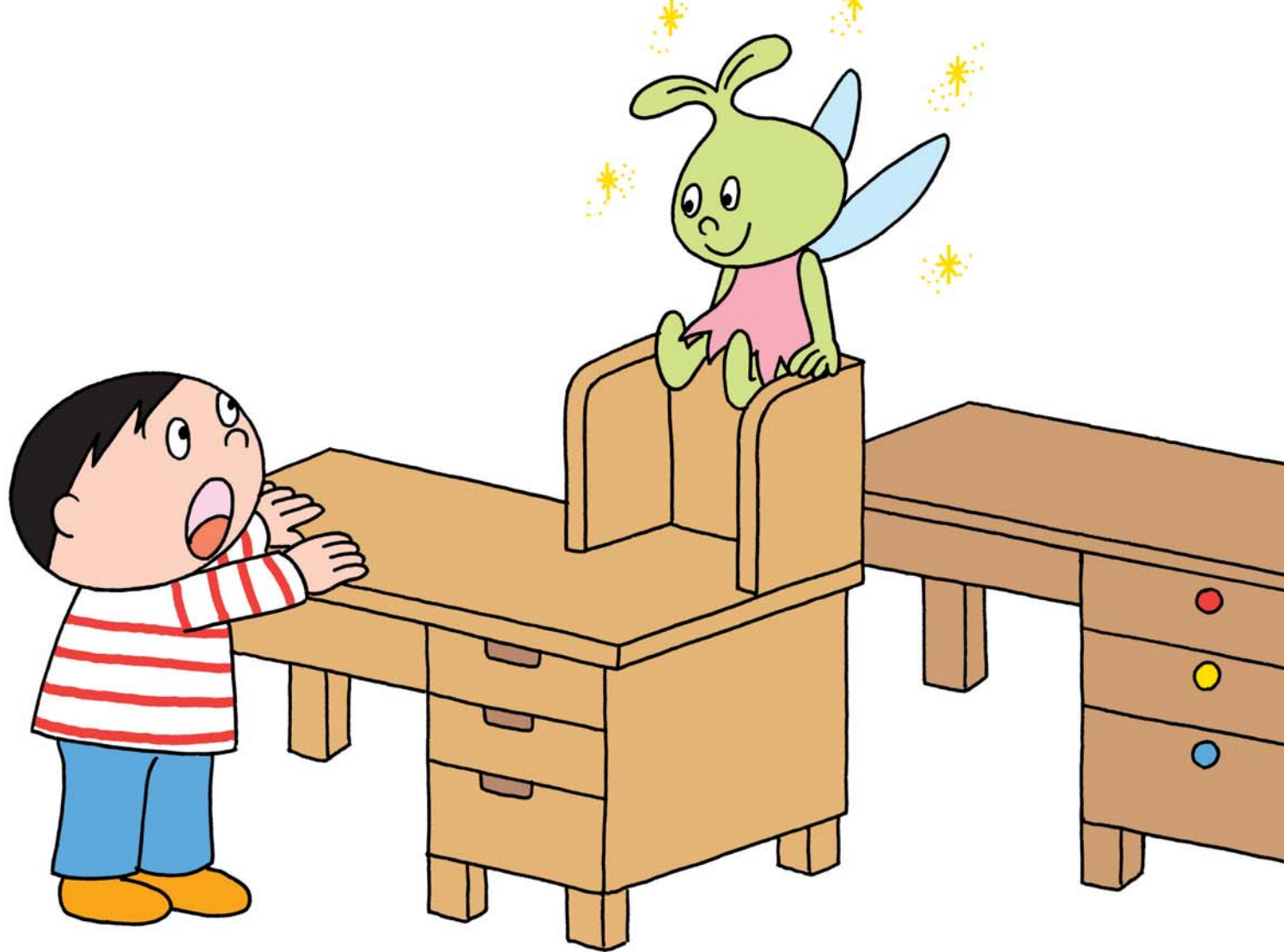
とつぜん、目のまめえに、みたこともない、

いきものがあらわれました。

サンちゃんはびっくり。

「きみは、だれ?」

「わたしはラーフ、森のもり妖精ようせいよ」。



「ねえ、サンちゃん？ その机つくえがどうやってつくられたか、知しってる？」

「ええーと。工場こうじょうでつくられたんだよね。」

「知しってほしいのは、机きになった木のことなの。」

「そうか、これ、木でできているんだね。」

「木は森もりでそだつのよ。わたしも、森でそだったの。」

「へえ～。ラーフの森、みてみたいなあ。」

「つれていってあげるわ。さあ、手てをだして！」

ラーフが手をつなぐと、

サンちゃんのからだがふわりと、うきあがりました。



ふたりがやってきたのは、ラーフのふるさと、^{みなみ}くに^{もり}の森です。
そこは、たくさんの木や草がそだち、いろいろな動物がくらしています。
「ここが、わたしのふるさとの森。とってもいいところでしょう？」
「すごいや、オランウータンやゾウもいるよ！」
「そう。わたしたちの森には、いろいろな動物が、
たのしくくらしていたのよ。」



「でもね。あるとき、^{もり}森のなかに^{にんげん}人間がはいてきて、
つぎつぎと木をきりたおしたの。
わたしたちの森は、どんどんへっていったわ。
なかには、森の木をぜんぶきって、
そこでくらす^{どうぶつ}動物や^{ひとびと}人々のことをかんがえずに、
自分がほしい木だけを、
^{じぶん}自分がほしい木だけを、
たくさん植えてしまう*1人間もいるのよ。」



「森の動物たちは、どうしたの？」

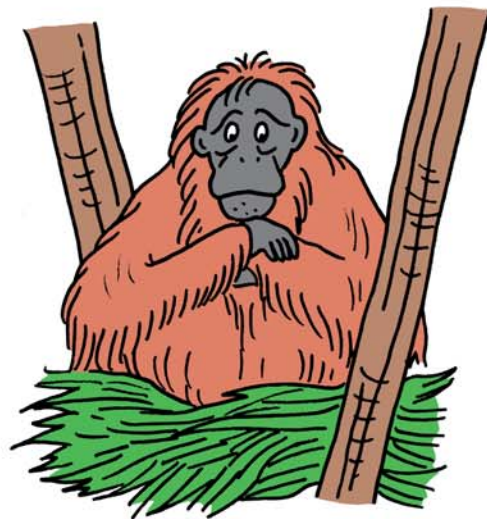
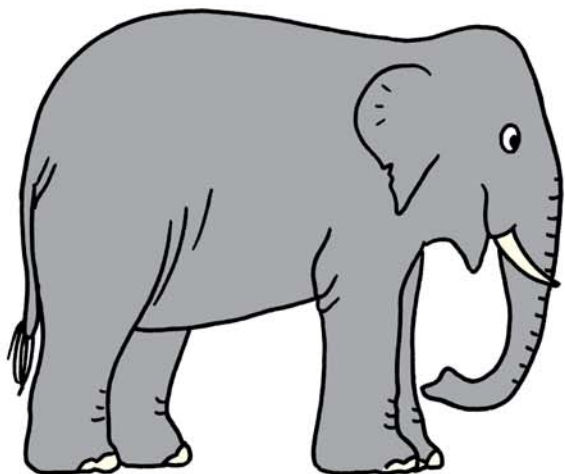
「動物たちがくらせる、たいせつな森*2も、なくなってしまったわ。」

「たべものをさがして、人間がつくった森にはいりこんだゾウが、ころされることもあるし、

おこったゾウが、人間におそいかかることもある。」

「むかしから森でくらしている人たちと、

あとからやってきて森をきろうとする人たちのあいだで、あらそいもおきているの。」



「ぼくの知らない、とおい^{くに}で、かなしいことがおこっていたんだね・・・」

「サンちゃんがえらぼうとしていた机、

じつは、わたしの森の^{もり}木^きをつかっているの。」

「えっ!!」

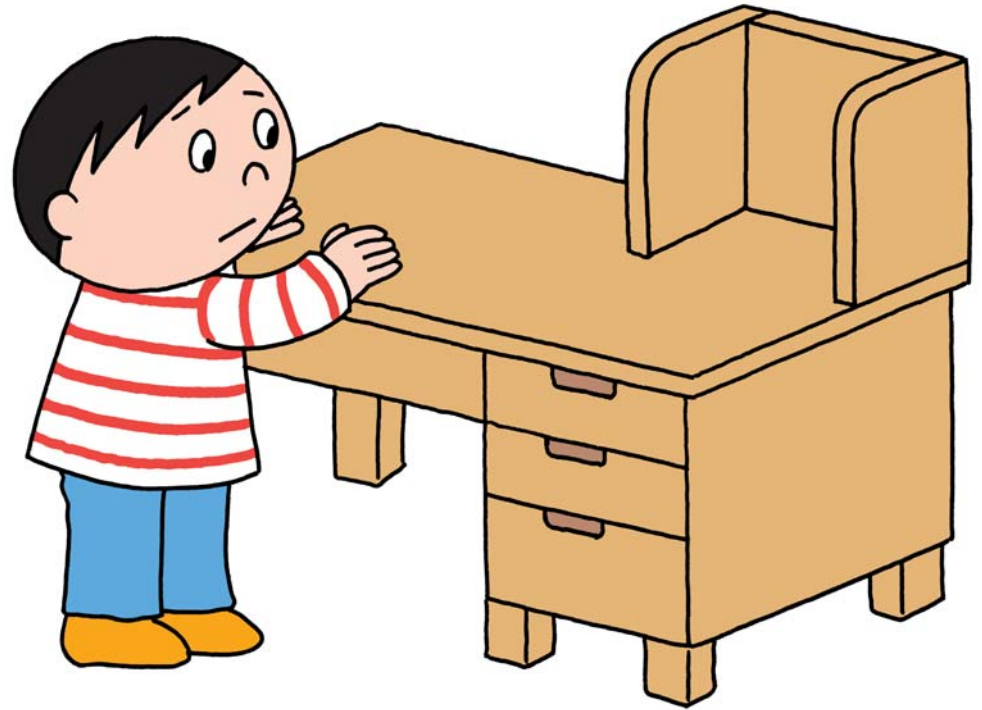
サンちゃんは、びっくりしてラーフをみました。

でも、もうそこにラーフのすがたはありませんでした。

ゆめだったのでしょうか。

でもサンちゃんは、

ラーフのいっていたことが、^き気になってしかたがありません。



「サンちゃんたら、おかあさんのいうこともきかないで。」

気がつくとおかあさんがとなりにいました。

「おかあさん、この机つくえになった木は、どこの森もりからきたの？」

おかあさんは、びっくりして、こういいました。

「ああ、おどろいた。

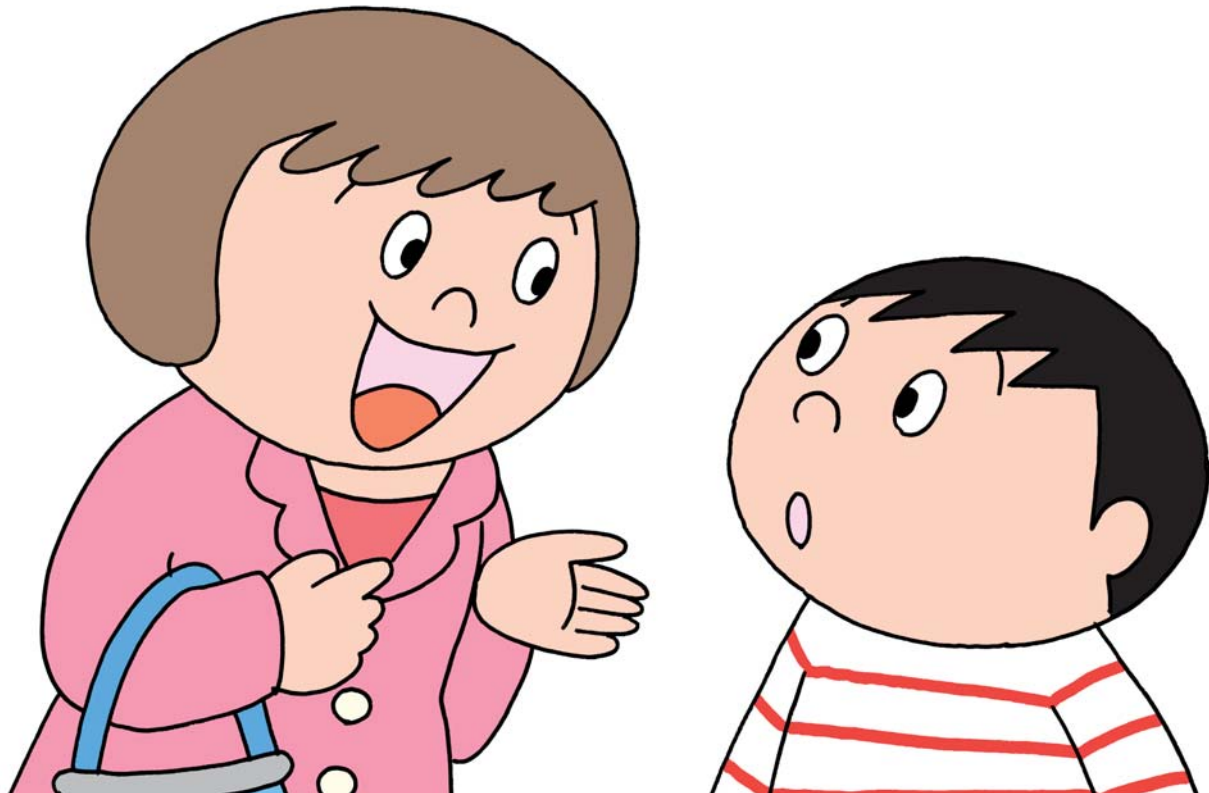
だって、サンちゃん、おかあさんとおなじことを、

かんがえているんだもの。

机をえらぶとき、それはとっても、たいせつなことなのよ。

いっしょにしらべてみましょう。」

そういって、おかあさんはにっこりわらいました。



サンちゃんとおかあさんは、その机つくえを、あちこちみてみましたが、
よくわかりませんでした。お店の人みせ ひとに聞いてもわかりません。
「ラーフがいったことは、ほんとうなのかもしれないなあ。」
サンちゃんは、気きにいていたその机をじっとみて、そしていいました。
「おかあさん、ぼくこの机はやめるよ。
もしかしたら、とおい国くに もりの森をこわして、
つくられたのかもしれないから。」



「でもおかあさん、^{もり}森をこわさないで、^{つくえ}つくられた机なんてあるの？」

「あのねサンちゃん。木をきる^きことが、ぜんぶ森をこわすわけじゃないのよ。

ひつようなぶ^ぶんだけ木をきって、きったあとにまた木が^{そだ}育つように

人^{ひと}がたいせつに^{つか}使っている森もあるの。

そこでは、動物^{どうぶつ}や森のまわりでくらししている人のことまで、

ちゃんと^{かんが}えながら、森を^{そだ}てているんですって。」

「ぼく、その森の机がほしい! どこにあるの?」

「その森からきたものには、

^{えんえんしー}FSCというマーク^マが^あっているんですって。さがしてみましよう。」

サンちゃんとおかあさんは、

FSCマークのついた机をいっしょうけんめいさがしました。

でも、その^{みせ}お店では、みつけることができませんでした。



そのようすをみていたお店の人は、サンちゃんのために、
FSCマークの机をさがしてみる、といってくれました。

机はすぐにかえませんでした、サンちゃんはうれしい気持ちになりました。

「ぼくが、ちゃんとFSCマークの机をえらんだら、
ちょっとだけラーフの森をまもれるのかな？」

「ラーフってだあれ??」

おかあさんが、ふしぎそうにききました。

サンちゃんは、

すぐそばでラーフがキラキラとわらっているような気がしました。



*1:自分がほしい木だけを、たくさん植えている森 →「プランテーション」

単一の農林産物を大量に栽培する大農園、プランテーション。開発や管理のやりかたが不適切な場合があるために、世界各地でさまざまな問題を引き起こしています。

たとえば、自然林を大規模に切りはらって農林地へ転換すれば、自然環境は大きく損なわれてしまいます。もともとそこで生活していた人々との土地利用をめぐる争いや、悪条件での労働などの問題も起きています。

農林産物は、適切なやり方で栽培や管理を行えば、くり返し生産し、収穫することができます。貴重な自然林を残し、経済だけでなく、環境や社会にも配慮して、適切に管理されるプランテーションが望まれています。



プランテーションのために、大面積の自然林が切り倒された伐採跡地（インドネシア）。

© WWF-Canon / Alain COMPOST



環境や社会への配慮をせずに伐採された後、開発された油ヤシのプランテーション（インドネシア）。

© WWF-Canon / Alain COMPOST

*2:動物たちが暮らせる大切な森→「保護価値の高い森林」

将来にわたって残していく価値のある貴重な森林。それは「保護価値の高い森林」として、守っていかなければなりません。多種多様な動植物が生息する森林はもちろんのこと、先住民や地域住民にとってかけがえのない森林などが、これに該当します。具体的には、次のような森林を指します。

○生物の多様性が高い、あるいは自然の状態が広い面積で残って



多様な動植物が生息し、高い生物多様性を有する熱帯雨林（インドネシア）。

© Edward PARKER

いる森林

- 希少な生物や、絶滅の危機にある生物が生存する森林
- 土壌や水資源などを保全する上で必要な森林
- 地域社会の人々が暮らす上で重要な役割を果たしている森林、あるいは伝統文化や地域経済を維持する上で重要と考えられる森林

*3:FSCマーク→「FSC森林認証制度」

FSC (Forest Stewardship Council、森林管理協議会)は、森林認証制度を運営する国際的なNPO。FSCの森林認証制度は、森林の管理や伐採が、1.環境保全の点から見て適切で、2.社会的な利益にかなない、3.経済的にも継続可能であるかを、信頼できるシステムで評価・認証します。そして、認証された森林で生産された木材や、その木材を原材料にする製品には独自のロゴマークが付き、市場に流通しています。

つまり、FSCのロゴマークは、適切な管理がされている森林から来た製品であることを保証するもの。そして消費者は、FSCマークの付いたものを選ぶことで、適切な森林管理を行っている林業者を支援し、ひいては世界の森林保全に貢献することができます。



インドネシアの森で、代々生活を営む先住民のダヤク族（インドネシア）。 © Edward PARKER



環境・社会・経済の面から適切に管理されているFSC森林認証林（日本）。



認証審査は独立した第三者によって行われる。審査員による認証審査の様子（日本）。

FSC認証製品の紹介

FSC認証マークのついた製品は、日本でも目に付くようになりました。意外に身近な所でも、FSC認証品に出会うことができます。みなさんもFSC認証マークを探してみましょう。



◀ FSC認証材でできたイスと机。
「アースファニチャー学習机」
(協同組合ウッドワーク)

FSCのお箸と大人気
ハローキティがコラボ
レーション
(ミニストップ株式会社)



● 毎日の生活に気軽に取り入れることのできる製品も登場。



◀ FSC認証紙で作られている
ノート
(コクヨ株式会社)

国内でも販売されている
ドイツ老舗メーカーの鉛筆
(スタビロ社)



● WWF山笑会



WWF山笑会は、自分たちの扱う製品の原材料が、どこの森林から来ているのかを確かめ、保護価値の高い森林を守りながら、森林資源を持続的に利用していくことを目指して、結成されたグループです。その確認方法として、FSC森林認証制度を積極的に活用していきます。森林の管理者、木材や紙を加工・流通する企業などが主な会員ですが、森林をめぐる環境問題や森林保全に広く関心のある組織も、参加することができます。

ホームページ:<http://www.wwfsanshoukai.jp/>

● FSCジャパン

(NPO法人日本森林管理協議会内)



©1996 Forest Stewardship Council A.C. FSC-SECR-0117

FSC国際本部から正式に承認された、日本の窓口となる組織です。日本国内で、FSC森林認証制度そのものの普及・推進を行うと同時に、日本を対象とした基準の検討と作成をおこないます。FSCに関するお問い合わせ、FSCの普及・推進へ向けて提案などございましたら、こちらへご連絡ください。

ホームページ:<http://www.forsta.or.jp/fsc/>

